

## [001]史淵表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2344464>

---

出版情報 : 史淵. 1, 1929-11-28. Faculty of Law and Letters of the Kyushu Imperial University  
バージョン :  
権利関係 :

## 史學會報

八四

(4) 支那古代に於ける物價

調節策に就いて

九大教授 重松 俊章

(二) 茶話會(會員研究發表)

(1) 臺灣生蕃の傳説二三に就いて

加藤 志朗

(2) 景行成務仲哀天智の皇居と御陵に就て

古川 義輔

(3) 熊襲に就て

戸上 駒之介

(4) 會員自己紹介

(三) 散會、七時半

次で、五月二十六日史會大會を開催す。

(一) 展覽會(13午前八時至十二時)

福岡市船町の素封家許斐友次郎氏邸に於て、同家の所藏品を陳列す。種々の珍器・繪畫及び石器時代の發掘物の如きは、

一般斯界の人々の羨望する所だけあつて、長崎、佐賀等遠方よりの觀覽者が多かつた。殊に考古學の泰斗醫學部教授中山平次郎博士の懇切なる説明は一層の満足を與へた。

(二) 講演會

午後一時より福岡日日新聞社講堂に於て開催した、重松教授

九大史學會の誕生に就いては、昭和二年十一月二十二日、福

岡市對馬小路やま利に、長壽吉、長沼賢海、重松俊章、竹岡勝也、の四教授並に史學專攻學生約廿名相會して、史學會創立相談會を開いたのに始まる。同會合に於いては、長壽吉教授作製の會則案を原案として、これに加割を加へて九大史學會の基礎づけをしたのである。翌年五月十七日、第二學生集會所に、教官學生集會して更に會則案の變更を議し、茲に始めて完全に生れ出たのである。長教授を同年度の委員長とし、庶務係會計係を互選して、昭和四年二月十七日例會を第二學生集會所に開催することに決す。例會は午後一時三十分より開催す。

(一) 講演會

(1) 開會の挨拶

本會委員長九大教授 長 壽 吉

(2) 本會成立の祝辭

長崎高商教授 武 藤 長 藏

(3) 鏡劍玉問題

醫學博士 中山平次郎

の閉會の辭について、

(イ)長崎高商教授武藤長藏氏は「日英交通史上の九州」と題して、先づ聴衆全部に「日英交通史料」を題するパンフレットを配布され、約二十冊の参考書を携へて登壇。最初に吾國に來た英國人は「ウィリアム・アダムス」であつて西暦一六〇〇年に當ることを論證され、演壇の兩側に掲げられた數多の説明表を以て詳細な歴史の説明をなされ、聴者の蒙を啓かれたこと甚しい。

(ロ)福高教授玉泉大梁氏

「室町時代に於ける貨幣の流通状態」なる演題の下に經濟史的なる御研究の發表があつた。本誌掲載の同氏講演筆記御参照ありし。

(ハ)九大教授長沼賢海氏

「鐵砲の傳來」なる演題の下に、天文十二年葡國人が吾國に鐵砲を傳へたのを以て、吾國の最初のものとする説の反駁より説き起さる。詳細は本紙所載の論文参照されし。

(ニ)九大助教授大村作次郎の閉會の辭を以て盛會裡に第一回

公開講演會を了る。

(三)晚餐會

豫想外の好成績を収めた講演會の閉會後、カフェエラブラツルの三階で、會員諸氏の懇親を目的とした晚餐會が開かれた。その席上に於ても亦有意義な史學餘談が卓上に咲き出でた。先づ長崎の近藤常明氏の鴻儒哲學の古典史籍讀後の感想が述べられ、次に古川義輔氏の御所山古墳に關する所見が發表され、中山平次郎博士の九州に於ける銅鐸は滿堂の視聽を集め最後に島田寅次郎氏の古墳と神社に就て有益なる説明があり盛會裡に會を閉じた。(島村記)

(追記)

長崎高商教授武藤長藏氏の「日英交通史上の九州」は講演以外に新たに氏の御補筆あり、有益なる論文として本誌に掲載する豫定であつたが、締切までに間に合はなかつたので、第二號に割愛した。右お知らせすると共に第二號論文の豫告とす